

なく川をた珠擲け彼まどれは松江のち
 らる層り堂意類もいめくうはくふ御妻な
 か—の夏の樹下名乃しらぬよ遊める
 ぬま—あ—て、よふの軍ハ一葉をひらよ
 及も決志いと首へしけく海兵ぬ張年
 檀ハもの安んそはらゆらぬぬへ
 笑しふま—と法旃乃ほくま—けく月
 論乃ゆ堂れ佛壇より下あろま—入
 斗—る

何くりよまをせぬそぬこま節に
 かならぬれつる田舎武有らるる知ん
 目もあはれをいんきと笑しん
 し—文章をいんきと向うははは
 ち—次いはいんきと向うははは

大将きぬを
 海兵ぬのつる
 目もあはれを
 文章をいんきと

